令和５年３月１日　第 13 号

坂戸市立三芳野小学校学校だより

若　葉

みよし野のたのむの雁もひたぶるに
　君が方にぞよると鳴くなる
わが方によると鳴くなるみよし野の
　たのむの雁をいつか忘れむ（「伊勢物語」）

のびのびと生きる子…みんなと仲良くする子、よろこんで学ぶ子、しんけんに体をきたえる子
目指す学校像　〇一人ひとりが学校・地域を愛し、より良い自分をめざし、力を発揮する。
　　〇一人ひとりが仲間から必要とされ、互いの良さを認め合う。

≪心を育てる≫　◎よろこんで学ぶ子　◎しんけんに体をきたえる子

普段の生活で「心」という言葉を盛んに使われています。「心」を辞書で引くと、人間の精神作用の下になるもので、知・情・意の総体だとあります。「知」とは頭の働き、「情」とは感情、「意」とは意志だとか意欲のことです。これらは互いに関係し合っていて、その全体がまとまって「心」だということです。「心」、これは「育てる」ものであり、決して「教える」ものではありません。

「育てる」というと、「植物などを育てる」というのでもおわかりのとおり、植物を育てる場合には、土を耕し、種をまいて、水もあげて、肥料も施して、害虫が出れば取り除いて、草が生えればこれも除く。また、水をあげることについても、芽が出たころには根本にあげますが、生長するにつれて少しずつ遠いところへあげていきます。これは、根を充分に伸ばし、倒れないようにするためです。このように、色々なことをしながら長い期間にわたってだんだん大きくしていくのが育てることなのです。

だからこそ「育てる」とは長い期間がかかるということ、色々なことをするということなのです。

よく「やる気」と言いますが、それも「心」の中にあるものです。「やる気」とは、簡単に言いますと、それは物事に進んで取り組もうとする気持ちのことです。進んでとは積極的だとか、あるいは自主的だとか、あるいは自発的だとか、自分から取り組もうとする気構え、心の状態です。

だから「やる気」も一朝一夕にして子供に身に付けさせようと焦らないで、長い期間色々なことをしながら育てていくことが大事ではないかという気がします。

では、どのようにしたら「やる気」は育つのでしょうか。

長縄大会での結果発表

１　自分のことは自分でさせる
　何もさせないことや過保護・過干渉からはやる気は育ちません。自分の力、自分の意志で行動を起こすまで待ちます。

２　めあてをを持たせる
　「やる気」は、ある目標に立ち向かう中で引き出せるものです。

３　やったことを認める
　十のことをやった時に三まではうまくいったけれども、残り七がまずかった時でも三までやった子供の努力を認めれば、やがてその子供は、最後まで取り組む「やる気」を起こします。

４　難しいことに挑戦させる
　時には壁にぶつかってうまくいかないことに気づきます。壁を打ち破る気持ちが、「やる気」につながります。

５　上手にほめる
　良いことをやって褒められれば、また良いことをやって褒められようという「やる気」が起こってきます。努力して褒められたなら、また頑張ってやろうという気持ちが更に強くなります。